

名戸ヶ谷ビオトープだより

第 63 号 2015 年秋号

<http://nadogaya-biotope.org/>

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会 発行

発行責任者：篠崎 将 Tel/Fax 04-7173-6353

収穫祭を終えて 11月7日 (土)



5月の田植えに始まり夏の盛りの草取り、ネット掛け、稲刈り、脱穀等を終え、今年も11月7日に新米を使った名戸ヶ谷ビオトープ最大イベントの「収穫祭」を行いました。

当日は、天候にも恵まれ会員の皆様の手際よい協力で、搗きたての餅をあんこ、きなこ、辛みだいこん等のくるみ餅にし、うるち米を

炊いて、おにぎりを作り、更に具沢山のとん汁、やきいも、秋の味覚の炭火焼きのサンマ等を美味しくいただきました。

今年も昨年同様、長谷川さんのおばあちゃん、当会会員の藺田さんが、詩吟を披露し、宴を盛り上げて下さいました。

残念な事ですが、今年は、名戸ヶ谷小学校の児童が、学校行事と重なり参加されませんでした。子供のはしゃぎ回る声を聞く事ができなかった事が少し寂しかったですね。来年は、子供たちが走り回り一緒に楽しめるといいですね。

今年の参加人数は、大人 32 名幼児含む児童 4 名中人 2 名の総勢 38 名でした。

今後も名戸ヶ谷ビオトープの各種活動に、会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。
(星合正明)



稲刈りで～す

今年は、台風被害もなく、無事稲刈りを迎えました。9月5日のもち稲は若干斜めになった株はありましたが、順調に稲刈りが進みました。例年よりパイプ棚2列（約10m）範囲が広がりました。12日のうるち稲の稲刈り前に茨城では大洪水になり、柏でも大雨になりました。田んぼの水もひかず、少し倒れがあり、昼に「おにぎり」を食べての作業になりました。本当にお疲れ様でした。

(小笠原 智)



はぎ掛け用パイプ棚の組み立てです。もち稲の稲刈り。少し倒れているので高さは大丈夫かな？



進みが遅くなります。



うるち稲の稲刈りも大雨後なので、大変でした



はぎ掛けを見守る案山子達です

脱穀作業も大変です

稲刈り後、台風が来ましたが、はざ掛けは倒れることなく、1ヵ月後の10日に脱穀作業となりました。好天に恵まれ、乾燥もよいようです。少し土埃が多くて皆さんの鼻の周りが真っ黒になっています。選別作業も軽食をとりながらで、2時過ぎまでかかりました。これで大きな作業は終了です。本当にお疲れ様でした。
(小笠原 智)



多くの会員が参加しての脱穀作業
(足踏み脱穀機と手回し唐箕作業)



脱穀後のモミの選別が又、大変です



おにぎり軽食をとりながらの作業です



残った稲束に雀が集まっていました

秋の生態系調査

10月7日(水) 晴れ 気温 22度 北風強し

9:30～11:00 柄澤さん、篠崎さん、佐々木さん、坪井さん、そして小生の参加で、佐々木さんは植物関係を担当、残りのメンバーは生きものでした。晴れて北西からの風が強く吹き、蝶などには大変ですが、アキアカネが例年になく多く飛び交っていました。柄澤さんの話では、アキアカネがあまりに多く、例年見られるマイコアカネが追いやられているとのことでした。いろいろ違った生態系現象でした。

それぞれ捕獲網を持ち A、B ゾーンを隈なく探索し、又カメラで収めた名前の確認をしたりで、1時間半の調査を終えました。確認出来た個体種は58種となり秋の調査では過去最高でした。皆さんの協力で十分に自然環境の維持がされており、嬉しい事です。

(藤平三郎)



秋の生きもの観察会

10月18日(日) 9:20～10:40 曇り

前日が雨天のため延期で日曜日に開催となり、天気は曇りで丁度良い気候でした。合同作業日とも重なり会員も参加しました。

今回も環境ステーション主催の「柏の自然と生きものフェスタ」での参加行事となりました。

「広報かしわ」の案内、事前に名戸ヶ谷小、第八小などへポスターを持参し参加を募りましたが、結果として一組の父兄と児童だけでさみしい観察会となりました。

初めに篠崎さんからビオトープ内を巡って概要説明を受け、その後は捕獲網を持って B ゾーンのザリガニ釣り場、三角池に向かいアメリカザリガニなどを捕獲しました。曇りのせいか、トンボ、蝶などはあまり飛んでいませんでした。その後は容器に入れたメダカと外来種カダヤシの違いなどの説明を受け、又用意した昆虫顕微鏡や望遠鏡などを見ながら観察しました。終わりには、佐々木さんの案内で植物の説明を聞き、自然とふれあいながら楽しい時間であったと思います。父兄の方は名戸ヶ谷小教諭で生きもの関係には詳しく、更に知識の深まった事でしょう。(藤平三郎)

- ← 雀を見つけ、大きい!
- ✓ 顕微鏡見て、すごい!
- ↓ 植物の説明です



合同作業日の活動状況

毎月第三土曜日の合同作業日には多くの会員参加のもと稲作活動、に伴う作業や柏市からの委託活動（周辺地の草刈り、ゴミの収集、木道保善等）を行っています。9、10月に実施した合同作業の内容をお知らせいたします。

9月19日(土)



三角池の木道下に古木材を土留めして池を整備しました。また、Aゾーンの看護師寮側と鈴木邸前の草刈り、湧き水口の周りをカワセミが餌を捕獲しやすいように草刈、枝切りをしました。

10月18日(日)



外来種であるセイタカアワダチソウがA、Bゾーンのあちこちに見受けられ、その刈り取り作業を行い、写真の如く、セイタカアワダチソウはきれいに除くことができました。当日は生きもの観察会であり、ハザ解体作業は観察に支障きたすので翌週にしました。

10月24日(土)



この日は会員8名でハザの解体作業を行い、続いて写真の如く、藁を切り水田にバラ撒きました。

ガマのお話し

ビオトープには三種類のガマが見られます。ガマ、ヒメガマ、コガマです。右の図は三種類のガマの見分け方を示したものです。

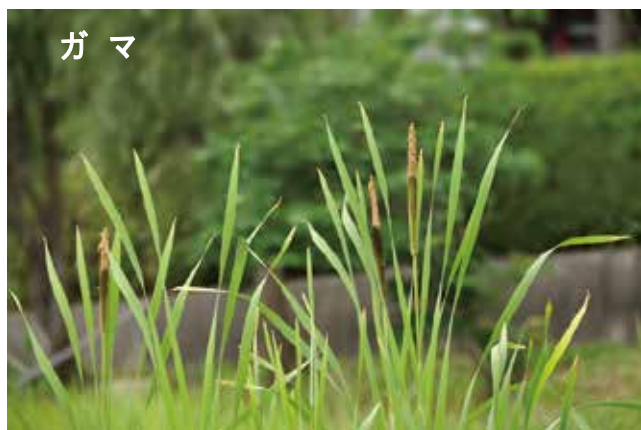
ガマの花は茎の先に固まって付きます。二つの円柱からなっていて、上の円柱が雄花、下が雌花です。雄花は花粉を飛ばすと無くなり、下の雌花だけが残ってガマの穂となります。

私たちがよく見る茶色の穂は残った雌花のかたまりです。

ビオトープでは、三つのガマはそれぞれに住む場所を持っています。ヒメガマはBゾーンの南側にヨシと一緒に住んでいます。ガマはBゾーンの北側とAゾーンの湿地が住みかです。コガマは主にBゾーン北側の真ん中周辺に点在しています。

湿地は、人手をかけずに放っておくとガマやヨシなどの大型の草で覆われてしまいます。ビオトープの湿地（Bゾーン）も始まった頃は下の写真のようにガマで厚く覆われていました。このままでは他の小型の草—アカバナやミゾソバなどが育ちません。そこで、湿地を二つに分けて、北側はガマなどを刈り取り小型の草を育てることにしています。

ビオトープが始まった頃にはガマの刈り取り作業は大変な作業でした。しかし、今ではガマの勢いは抑えられ、程よい

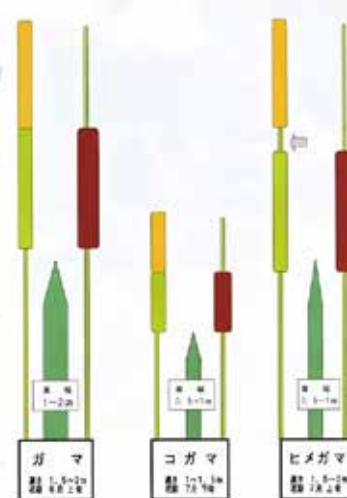


ガマ

状況に保たれてい

ます。ところで、最近では、ガマの保身に気を配る必要が生じてきています。と言うのは、ヨシと共生しているヒメガマがヨシに押されて徐々に減少しているためです。

来年からは少しヨシを刈り取りヒメガマのすみかを確保する作業を始めるつもりです。
(佐々木光正)



2003年のBゾーン北側

名戸ヶ谷ビオトープに来てみませんか？

交通：柏市東口より東武バス（1番乗り場）「名戸ヶ谷行き終点（名戸ヶ谷病院前）下車すぐ
面積：約 4,400 m² 湿性生物：57種 生きもの：161種（内、千葉県指定保護生物 26種）

（2013年、年間を通じて観察した生きものの種類）